

5 次世代人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会における村岡正嗣県議の質疑

2013年10月9日

◆審査事項「個性ある地域文化の振興について」 「第82回全日本フィギュアスケート選手権大会等の開催について」

Q. 村岡正嗣委員

1. 文化芸術振興計画の全体の進捗状況について、検証や評価を行っているのか。その際、県民の声や専門家の意見などを聴いているのか。
2. 未利用施設である歴史的建造物や空き店舗等を活用することは有効であり、埼玉でも進めてもらいたいと思うが、対象としているのはどのような施設で、どのようなイベントが考えられるのか。また、助成については、申請を待っているのか。
3. 県内に国指定史跡が18件あるということだが、もっと増やしていける可能性はあるのか。
4. 埼玉古墳群は、土地所有者の了解が得られて指定範囲が拡大したということだが、今後、調査が進む中で、指定範囲の拡大を行う見通しや課題について伺いたい。地図を見ると、南東方向は住宅地が迫ってきている。指定範囲を拡大していく際の考え方を伺いたい。
5. 埼玉には、フィギュアスケートを練習しようにも、通年でできる施設が川越にしかない。せっかくこういう大会が開催されるので、大会自体を成功させるのは当然だが、例えば、別の場所に実況生中継の特設会場を設けて子どもたちを招待するなど、子どもたちのフィギュアスケートへの関心を高める取組はできないか。

A. 文化振興課長

1. 毎年、施策の体系ごとに全庁的に事業の実施状況について調査を行い、進捗状況を確認している。計画では、施策体系ごとに目標を定めているが、その目標に対する達成状況の確認も行っている。計画の進捗状況については、庁内関係課による推進会議や市町村文化行政担当者会議で報告し意見を聞くほか、県のホームページに

掲載して、県民の方々から意見をいただけるようにしている。

2. 例えば、皆野町では利用されていない建物を改修しコンサートやギャラリーに活用している。さいたま市の織の音工房では織物の体験や作品展示を行い、秩父市では町屋を改修して映画会やコンサートを開催している。事業の周知は大切であり、文化団体だけでなく、商店街などにも広くPRしている。

A. 生涯学習文化財課長

3. 把握している限りでは10以上の市町村で国指定の史跡を目指す動きがある。それぞれの市町村が遺跡の価値や範囲を明らかにするための調査を行っているので、県としては国との連絡調整や技術的な助言により支援していきたい。
4. 埼玉古墳群には古墳と古墳の間にまだ指定範囲となっていない場所がある。住宅地も含まれているが、そのような場所についても今後御理解をいただきながら指定していくべきであると考えている。最終的にどの範囲までということについては、さきたま史跡の博物館で古墳群の範囲を調べるための調査を継続して行っているので、その成果を踏まえて検討する。

また、指定範囲の拡大を踏まえて整備を進めるとともに、歴史的な価値付けを明確にし、評価を定めていくというような基礎的な作業も課題の一つであると考えている。

A. スポーツ振興課長

5. 全日本フィギュアスケート選手権大会は、主催者が日本スケート連盟やISUであり、世界的な注目が集まっていることもあり、詳細は、まだ明らかにできない部分がある。

しかし、我々としても、例えば、仮設の小さなスケートリンクを作って滑らせられないかとか、パブリックビューイングをできないかとか、

あるいは、過去の出場選手のコスチュームの展示会ができないかとか、前回大会までの実績ではバックヤードツアーというか、大会開催期間中に練習場所や会場を子どもたちに見せるというような企画もやっていたようなので、それらも含めて日本スケート連盟と相談しているところである。

そうした形で、子どもたちも含めてスケートに関する興味・関心やスポーツへの関心を深めるような工夫をしていきたい。

Q. 村岡委員

1. 空き店舗等の活用について、いろいろ周知をしているとのことだが、産業労働部も空き店舗対策を行っている。どのように連携していくのか。

また、市町村の公民館活動者の活動発表の場としても使えるよう周知できないか。

2. 難しさがあるのはよくわかるが、せっきくの機会である。県内でフィギュアスケートを練習したくてもなかなかできない。せっきくこういう大会が行われるので、今後、県としてフィギュアスケートを練習できるようなところを整備する考えはないのか。

A. 生涯学習文化財課長

1. 空き店舗の活用については、産業労働部が発行している商店街向けの「黒おび通信」にも掲載するなど連携して周知している。このような施設も含め、身近なところでコンサートやギャラリーで展示を行える場所を集めたアートガイドを発行し、県内の全公民館に配布した。今後、活用いただけるよう周知していく。

A. スポーツ振興課長

2. 今年策定した、5か年計画であるスポーツ推進計画の中で、スポーツの場と機会の拡充という観点の課題として、屋内50mプールと屋内スケート競技場の整備手法などについて検討することになっている。我々としても、課題の一つとして考えている。